

<流動性預金規定>

納税準備預金規定

1. (預金の目的、預入れ)
この預金は、国税または地方税（以下「租税」といいます。）納付の準備のためのもので、当店のほか当金庫本支店のどこの店舗でも預入れができます。
2. (証券類の受入れ)
 - (1)この預金口座には、現金のほか、手形、小切手、配当金領収証その他の証券で直ちに取立のできるもの（以下「証券類」といいます。）を受入れます。
 - (2)手形要件（特に振出日、受取日）、小切手要件（特に振出日）の白地はあらかじめ補充してください。当金庫は白地を補充する義務を負いません。
 - (3)証券類のうち裏書、受取文言等の必要があるものはその手続を済ませてください。
 - (4)手形、小切手を受入れるときは、複記のいかんにかかわらず、所定の金額欄記載の金額によって取扱います。
 - (5)証券類の取立のため特に費用を要する場合には、店頭表示の代金取立手数料に準じてその取手料をいただきます。
3. (振込金の受入れ)
 - (1)この預金口座には、為替による振込金を受入れます。
 - (2)この預金口座への振込について、振込通知の発信金融機関から重複発信等の誤発信による取消通知があった場合には、振込金の入金記帳を取消します。
4. (受入証券類の決済、不渡り)
 - (1)証券類は、当店で取立て、不渡返還時限の経過後その決済を確認したうえでなければ、受入れた証券類の金額にかかる預金の払戻しはできません。その払戻しができる予定の日は、通帳の摘要欄に記載します。
 - (2)受入れた証券類が不渡りとなったときは預金になりません。この場合は直ちにその通知を届出の住所宛に発信するとともに、その金額を納税準備預金元帳から引落とし、その証券類は当店で返却します。
 - (3)前項の場合には、あらかじめ書面による依頼を受けたものに限る、その証券類について権利保全の手続をします。
5. (預金の払戻し)
 - (1)この預金は、預金者（または同居の親族）の租税納付に充てる場合に限り払戻しができます。ただし、災害その他の事由で、当金庫がやむを得ないと認めたときは租税納付以外の目的でも払戻しができます。
 - (2)この預金を払戻すときは、当金庫所定の払戻請求書に届出の印章により記名押印してこの通帳とともに当店に提出してください。
 - (3)租税納付のためにこの預金を払戻すときは、同時に納付書、納税告知書、その他租税納付に必要な書類を提出してください。この場合、当店は直ちに租税納付の手続をします。ただし、当店で取扱うことのできない租税については納付先宛の信用金庫振出小切手を渡しますので、それにより納付してください。
 - (4)この預金口座から租税の自動支払いをするときは、あらかじめ当金庫所定の手続をしてください。なお、同日に数件の支払いをする場合にその総額が預金残高を越えるときは、そのいずれを支払うかは当金庫の任意とします。
6. (利息)
 - (1)この預金の利息は、毎日の最終残高（受入れた証券類の金額は決済されるまでこの残高から除きます。）1,000円以上について付利単位を100円として、毎月3月と9月の当金庫所定の日、店頭に表示する毎日の納税準備預金の利息によって計算のうえこの預金に組入れます。
 - (2)租税納付以外の目的でこの預金を払戻した場合、その払戻日が属する利息計算期間中の利息は、店頭に表示する毎日の普通預金の利率によって計算します。
 - (3)前2項の利率は金融情勢に応じて変更します。
 - (4)この利息には第2項の場合を除き所得税はかかりません。
7. (納税貯蓄組合法による特例)
この預金が納税貯蓄組合法に基づき結成された組合の組合員が行う納税準備預金（以下「納税貯蓄組合預金」といいます。）である場合は、預金の払戻しおよび利息につき次のとおり取扱います。
 - ①納税貯蓄組合預金は第5条第1項にかかわらず租税納付以外の目的でも払戻しができます。
 - ②租税納付以外の目的で払戻した場合、その払戻日が属する利息計算期間中の利息は、第6条第2項と同様に普通預金の利率によって計算しますが、その払戻額の合計額が当該利息計算期間中において納税貯蓄組合法に定める一定金額以下のときは、所得税はかかりません。

(改定：令和2年4月1日)